

5. 八潮市ハザードマップの作成について

5.1 方針

平成27年9月に発生した関東・東北豪雨や平成30年7月豪雨（西日本豪雨）では、ハザードマップに危険性が示されていた浸水想定区域で多くの被害が発生しています。

このことから、ハザードマップ等によって、災害発生危険地域を事前に把握していくことの重要性が改めて認識されました。

本市では、過去の災害を教訓としながら、国や県が想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図や地震被害研究結果等に基づき、市民の安全な避難行動と二次被害防止を目的としたハザードマップを作成し、平成31年度末に全戸配布します。

5.2 ハザードマップの構成

ハザードマップは、「災害発生前にしっかり勉強する場面」と「災害時に緊急的に確認する場面」を意識し、「地図面」と「情報・学習編」で構成します。

ハザードマップを初めて見る方が災害を正しく理解できるようなわかりやすいレイアウトで作成します。

災害が発生した場合及び発生する危険が迫った場合には、速やかに適切な避難行動に結び付くような工夫を凝らします。

【構成案】

- ・ 過去の被災事例等を踏まえたハザードマップの必要性
- ・ ハザードマップの活用方法
- ・ 災害情報の確認方法
- ・ 災害種別ごとの避難行動
- ・ 避難生活で気をつけること
- ・ 外国語表記への対応